

地域包括ケア専門職“絆”研修第 10 回 ③看取りの時期(終末期支援)

〈日 時〉令和8年2月15日(日)



9, スタッフの振り返り

1. グループワークの司会について

・担当したグループは発言に積極的な方 3 名、控えめな方 2 名の構成だった。司会を任せるとしたら、公平性を考えてそれまでに役をしていなかった控えめな方 2 名のうちから決める必要があった。積極的な方 3 名とファシリがいれば話し合いはできるかと思い、司会を任せることにした。

司会と発表は上記 2 名で話し合っで決まった。

※「今回は司会もお任せします」と話すとお顔が少し固まっていた。

個人ごとのポストイットが出尽くした後に話が止まってしまった。その後フォローすると、フォロー後より司会者の発言がなくなっていった。結果としてフォローしたことで司会者の参加意欲を奪ってしまったかもしれない。(司会ができなかったことに対する落ち込みや周りに任せるなどの依存)

そのため先走ったフォローだったかもしれないと思った。

上記に限らず司会に慣れていない方もいらっしゃると思うため、司会を任せる際は事前にある程度の手順を伝えておく必要を感じた。(志水)

・GW1 は小生が司会をした。雰囲気を見て GW2 は参加者にお任せしたが、議論が円滑に進まないなと判断したため、途中から小生の方で司会を移行した(もともと司会をされていた方にはあえて交代のお伝えはしなかった)。(中嶋)

・以前絆研修に参加したことがある方の中で、発表者を決めて、それ以外の方の中から立候補制でお願いしたが、その中の1名の方がすんなりと自分から引き受けてくださった。(青木)

・5Gはおとなしい参加者の方ばかりだったため、参加が受け身にならないよう、あえて司会をどなたかしていただけないかお願いした→GW①で書記発表予定だった方があたらなかったため、GW②の書記発表をかってでてくださっていたが、その方が司会もやりますと自ら言うてくださった。(三橋)

・途中話し合いが途切れる場面があったが、出ていた意見から皆様の考え等を聞き出すように質問を行っていった。後半で話し合いが途切れても司会の方がうまく看護師の方に現場ではどのような感じか、等話し合いを深めてくださった。(三橋)

・GW②で司会発表の方がすぐ決まり、話し合いを進めていたが、途中で「発表者の方が決まったか」を確認されたため、話し合いが一時中断した。最初に個人ワークとグループで考える時間を伝え、何時何分から全体発表になるとまとめて説明していただき、あとはグループファシリに任せていただく形でも良いかな、と思った。(三橋)

・グループワーク①で参加者同士の雰囲気を見て、自主性のある方が多いと判断した上で、グループワーク②では司会者を手上げしてもらった。一瞬の躊躇は見られたが、「ファシリがフォローにも入ります。」とお伝えすると、すぐに司会者の手上げがありスムーズに決まった。グループワーク自体も問題なく進んでいた。(近藤高)

・グループワーク2は参加者に司会をお願いしたが、なかなか立候補がなかったので、誕生日が遠い人で決めた。司会が決まれば、書記は「じゃあ書記は私がします」と名乗り出てくれたので3分程度で決まりました。(平井)

2. 良くできたと思うこと、このままやっっていこうと思うこと

【ファシリテーター】

・発言が少なかった方に話をふれたこと。(志水)

・議題の目的からそれないように努められたこと。(志水)

・第3シリーズは恒例だが、議論が深まらなかったり、各参加者さんの経験値の差が出る回だと思うので、なるべく意見が出にくい参加者さんにも発言を促せたと思う。(中嶋)

・グループワーク中に発言の少ない方に質問を投げかけたところ、自分の経験を話してくださり、他の方も同じ様な体験があったことを話され、同じ話題を通じて気持ちを共有できた。(青木)

・参加者の皆様がまんべんなく発言していただけた。(三橋)

・薬剤師の方が「経験がないので、よく分からない。」と最初に心配しておられたが、意見を積極的に出してくださり、とても良い視点からのご意見をうかがう事ができた。未経験の方でも話しやすい雰囲気は作れたと思う。(三橋)

・〇〇しやすく。を意識してファシリテートに挑んだ。グループワークでの考える内容を分かりやすく。発

言しやすく。楽しみやすく。参加者のキャラクターにも助けられ、上手くいったかと思う。導入部分のアイスブレイキングで如何に和やかな空気を作るかが重要と考えており、そのために自己紹介を淡々と進めるのではなく、出てきた発言を拾って笑いに繋げて場の空気作りをするよう心掛けた。多少個人的な話を入れる事で互いを知り、共通点を見つける事で緊張が緩和していくのを感じた。緊張が解れた事でグループワークでも意見が出やすくなったと思う。グループワーク①では自分が司会を担う事でインシアチブをとり、引っ張り上げるようなイメージを意識。考えや意見を出しやすくすることに努めた。グループワーク②では1歩引いたところで下から支えながら突き上げるようなイメージで関わり、①と②でやり方を変えてみた。司会の方が上手に進行してくださり、ファシリとしてはグループワーク開始時と途中での軽い助言のみ介入。あとは活発な意見交換が行われていた。(近藤高)

・話が時間内に滞ってしまった時に、「他の方の意見で気になることは？」等深掘りする投げかけを心掛けることができた。(平井)

【プレゼンター】

- ・時間を守れて終わることができた。(衣笠)
- ・打合せで話し合ったことをできるだけ取り入れることができた。(衣笠)

【ブラッシュアップ】

- ・グループワーク2で活用したワークの流れのスライド(時間管理も含めた)は良かった。(近藤雄)
- ・ポストイットへの記入方法、グループワークする際のテーブル・椅子の位置など、気になった部分をブラッシュアップチームですぐに検討し対策案を考えることができた。(曾田)

【事務局】

- ・欠席者(ファシリ)の対応が、素早くできた。(橋本)

3. 今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

【ファシリテーター】

- ・グループワークではどこに着地点を持っていくのか不透明なまま始めてしまった。次回チャンスがあれば着地点と何を優先しどんな問いかけが必要なのか、出来る限りの準備をして参加させていただきます。(志水)
- ・司会を任せる際は、ある程度の手順を伝えてから、司会を中心に話し合いができるようにフォローしていく。(志水)
- ・いつもファシリテーターなのに入り込みすぎてないか悩ましい。(中嶋)
- ・決められた時間で役割を決めるなどの手続き的な部分で、少しとまどった為、次回は全体の流れを意識しながら決め事などスムーズに行っていきたい。(青木)
- ・話し合いをふくらますための投げかけ(話し合いの種)をもっと持っておく(考えておく)必要があると反省した。自分なりの想定を何パターンか持っておく必要があった。(三橋)
- ・「声が小さく、聞き取りにくい」というご意見が最初の方にあった。工夫が必要であった。(三橋)
- ・アイスブレイクを甘く見ていました・・・打ち解ける雰囲気まで持っていけず、その雰囲気のまま研修が

進んでいったように思う。重要性がわかりました。次回から自分なりに工夫できるような事も考えておく必要があると思った。(三橋)

・今回は自主的に発言をされるグループメンバーだったが、控えめな方が集まったグループだと同じように上手いかわからないと思われる。そのようなグループでも各個人の意見を吸い上げる事ができるようなファシリテートができるようになりたい。(近藤高)

・一人の看護師さんが自分の経験や知識をもとに話(点滴の方法など)が長くなり、本来の目的とは違って来た時に、どこで軌道修正するのかタイミングを計っている時間が難しかった。(平井)

【プレゼンター】

・自分が医療者なので、その経験に基づいて話しがちになってしまう。看取りの経験のない他職種への配慮を忘れないようにする。(衣笠)

【ブラッシュアップ】

～ファシリガイド追加:3回シリーズの共通事項として～

・模造紙・マナーチェックカードを事前にワークが円滑にすすむよう位置を修正しセッティング
・付箋とマジックを各参加者への席へ事前にセッティング(※黄色の付箋に茶色のマジックが非常に見やすかった。ボールペンはたくさん書いてしまって見づらいこと・要約して伝えるスキルを高めるためにもマジックが良い)

・名札の位置を見えるよう声掛け

・グループワークの際だけ、席を寄せる もしくは席移動するルールの追加

・ワークのマナーチェックにおいて特に重要視するマナーをグループ内で意思決定する場を設ける(もしくはファシリが ワーク①の状況を踏まえて、ワーク②では意識してほしいマナーを設定する)(近藤)

～研修の構成において～

・レクチャーとワークのスライドの順番の修正(ワークの内容に沿って)

・アイスブレイクの全体発表の時間を30秒ではなく1分が望ましいか議論の余地あり(時間オーバーがあったため)

・マナーチェックの内容の見直し

・ワークのマナーチェックと発表者のマナーチェックのスライド追加の必要性の有無について協議

➡アイスブレイクの際の声のボリュームが小さいことが多く、アイスブレイクの前のスライドでマナーチェックのスライドがあってもよい?

・訂正箇所) オシメ ➡ おむつ (近藤雄)

【事務局】

・机は、6人グループまでなら、あえて2本でいいのかも? (ワークの声が届く。)(橋本)

4. 研修参加者にとってよかったと感じたこと

- ・ディスカッションを通して知識が深まったこと、互いの思いが聞けたこと。(志水)
- ・多職種連携をする上で互いを知れたこと。(志水)
- ・人によっては司会、発表というチャレンジを通して成長できたこと。(志水)
- ・普段看取りを行っていない職種の方が実体験を聞くことができたり、看取りを行っている職種の方がどのように感じ・考えているかを学ぶことが出来たかなと思う。(うちの事務スタッフが言っていました笑)。(中嶋)
- ・GW①はファシリが司会をすることでお手本となり、GW②では受講生での進行がスムーズにいったと思う。(田中)
- ・体験することで Being の意味が伝わったこと。(衣笠)
- ・プレゼンがわかりやすかった。(個人的に、臨床におけるブラッシュアップにつながった)(近藤雄)
- ・事業所自体の多職種連携の理解度が進んでいることで、所属の事務職の参加が増えるなど関係者間の連帯感が向上していると感じた。(地域力の向上)(橋本)
- ・多職種で意見交換できる場はやはり貴重だと感じた。(曾田)
- ・足立先生、衣笠さんが双方向での問いかけ・体験を通して会場を巻き込みながら研修を行っていたのは良かったと思う。(曾田)
- ・各職種ごとの業務的なことだけでなく、経験を通じた思いや理由を交換出来た。(青木)
- ・専門職としてのみならず、一人の人間としての価値観で意見を話して下さり、とても印象的なグループワークになった。(青木)
- ・まんべんなく発言していただけたこと。他者の意見もきちんと聞いたうえで、5G としての発表意見もみんなで考える事ができた。(三橋)
- ・終末期のシリアスなシチュエーションでのグループワークだったが、適度に明るい雰囲気を保ちながら意見交換ができていた。そのため真剣に話し合いをする時間帯と、笑顔を交えながら話し合いをする時間帯ができ、メリハリのある意見交換の場が作れていた。(近藤高)
- ・いつも思いますが、初めて会った方たちと意見交換ができ新しい発見を持って帰っていただけたのではないかなと思う。(平井)

5. 研修参加者にとって良くなかったと感じたこと

- ・司会、発表担当になると役に気を取られ、本来考えて頂きたいワーク内容が薄くなること。(特に研修、司会、発表に慣れていない方)(志水)
- ・机が 3 本だと、GW の際に声が聞こえづらかったり、模造紙に付箋が貼りにくい…。椅子を動かす等、自分たちで対応すれば良かったのだが、研修中は気が回らなかった。(田中)
- ・3回シリーズ修了者の最後のコメントをもらう際の声掛けは当日の方がよい？(研修に集中できなかったという意見もあったため)(近藤雄)
- ・グループワークの声が聞き取りにくいような人がいた。(机の本数で調整可能)(橋本)
- ・背中タッチの体験ですが、女性で違和感を感じる人はいなかったのか？(橋本)
- ・グループワークする際に参加者の声が小さく聞き取りにくいことが多そうに感じた。(曾田)
- ・マナーの部分をもう少し活用出来たらなおよかった。参加者の発言機会の確保、声量を大きくするな

ど、マナーを通して促せればさらに良くなりそう。(曾田)

・声の小さい方がおられ、他の方も聞こえなかったのではと思ったが、上手に修正することが出来なかった。
・事前打ち合わせでも話があがっていたが、グループワークの中で質問の意図に対して少し方向性の違う意見が出ていることがあった。質問の意図を説明する事で話の方向性を修正されていたが、その分話し合う時間が短くなったのではないかと思う。個人ワークの時間でその旨を伝えるのも意見の幅を狭めてしまう可能性があると感じるし、致し方ない部分でもあるかと思うが、今後の課題かと思う。(近藤高)

6. 研修までの準備に関する感想

- ・運営、プレゼンター、ブラッシュアップ、ファシリ、4つの方面から一つの物事を考えるのは意見が固執せずとても素晴らしい話し合いだと感じた。私の勘違いでお話されたかもですが、グループワークについての話し合いの際には“何を大切に、どういう着地点に導いていきましょう”というまとめの一言があると尚嬉しかった。(打ち合わせ、ファシリ初心者としては)(志水)
- ・二回目の打ち合わせに参加できなくて残念だったが、プレゼンターの練習を見学できることは勉強したい内容でしたので、次回のファシリメンバーに落選しても見学に行かせて頂きたい。(志水)
- ・いつも丁寧に作りこまれているため、今後も準備段階含め色々と勉強させていただきたい。(ドキュメンタリー撮ってもおもしろいかも？笑)(中嶋)
- ・振り返りのときにファシリテーターの方が言って下さったように、その研修で何を伝えたいのかをきちんと理解してファシリテーターの役割を担っていただくのがグループワークの成功の秘訣だなと思った。(衣笠)
- ・グループワークのシュミレーションをファシリ同士で行う日はあっても良さそう。(近藤雄)
- ・プレゼンターの双方向講義の重要度が下がっている感じがしますが、必要性も含めて皆さんはどう思いますか？(橋本)
- ・最近の研修はファシリテーターとグループワークの目的など話し合うことができ、事前準備が充実してきている感じがする。(曾田)
- ・グループワークのマナーの案内や、発表者等を定めるタイミングに対するロールプレイなどを行い、研修の流れに対して参加者の注意関心を妨げない様にするべきだった。(青木)
- ・今回は打合せが1回少なかったため、事務局の方も準備が大変だったと思います。いつもありがとうございます。綿密な打ち合わせがあるからこそ、充実した研修が開催できているのだと毎回思います。(三橋)
- ・グループワークでの話し合いの目的、どのようなことに対しての考えを出してもらうのが良いのかを事前に話し合っていたので、スムーズな進行ができた。毎回当事業所・法人のスタッフにも見学してほしいと思うくらい良い準備ができているな。と思います。(近藤高)
- ・時間回数共に良かったと思う。(平井)

7. 全体的な感想・意見

- ・自己紹介の際などに研修の参加目的、動機などを話して頂いてもよいのかなと思った。そこを聞ける

とよりその方に対してサポートができるのかなと思った。(運営、参加者同士で)(志水)

・参加者の研修の学び(内容)を第一優先で考えるならグループワークの司会はファシリに統一しても良いように感じる。ただ本研修にファシリテーターのファシリ能力を磨く目的もあるようでしたら、ファシリ司会と参加者司会を一つずつ配置しても良いのかもしれないと思う。(グループワーク 2 つに対して)(志水)

・個人的な感想:何ができないのか気づけて、今までおこなっていなかったことにチャレンジできて、何かしら成長に繋がることが発見できて楽しかった。参加者に貢献できるように今回みつかった課題に取り組みたいです。(志水)

・毎シリーズごとにファシリテーターやプレゼンターとして参加させていただきながら、(志水さんが言われていましたが)参加者以上により深く学ばせていただいている。

特に今シリーズ看取りの時期については、我々も東部圏域で多くの在宅症例に関わっているが、常にケアに悩み、答えが無い領域のため、様々な知見を得ることが出来ていると思う。

とうぶざいたくさんの研修にどこまで貢献できているかは分かりませんが、今後も学び、一緒に研修会を良いものにしていくお手伝いをさせていただければ幸いです。準備含め第 1 シリーズからお疲れさまでした。(中嶋)

・毎回感じることだが、打ち合わせの際に皆さんの絆研修に対する熱い思いが伝わってきます。それゆえに 10 年目となる研修にも多くの方が集まってくださるのだと感じています。(田中)

・活発な意見が出るグループが多かったので、有意義な研修だったと思います。(衣笠)

・またブラッシュアップチームで振り返っていきましょう。引き続きよろしくお願いいたします。(近藤雄)

・10年前の初学者と現在の初学者は、知識等が向上していると感じる。研修内容のブラッシュアップもだが、地域の状況、参加者の状況も観察しながら、高すぎず低すぎない研修会となるよう、お力添えをお願いします。(ブラッシュアップ後も、微修正は、都度都度行えばいいと思います。)(橋本)

・会を重ねるごとに事前の打ち合わせが充実してきている感じがします。来年度からはリニューアルした研修となるので、今回課題に感じたグループワークの環境設定・マナーの部分の活用など環境面での工夫も考えていきたいと思います。(曾田)

・グループワークの意見交換等は内容の濃いものとなったが、司会、発表者等の役割決め等のタイミングや進行について手間取ってしまい次回の課題としたい。(青木)

・自分のグループの参加者から研修が楽しかったと言ってくださりホッとしました。(青木)

・次年度、内容をバージョンアップした研修にも関わらせていただきたいと思います。自分自身も学びを深めていきたいと思います。(三橋)

・参加者・スタッフとして長い間参加させてもらってきました。毎年毎回、参加するたびに新たな学びがあり、ファシリテーターとしてのスキルも向上させてもらったと感じています。色々な方々とも知り合う機会となり、地域支援の輪を拡げるきっかけにもできたと思います。絆研修は参加者としても、ファシリテーターとしても、参加をすると受講中は物凄く頭を使います。終わるころには疲労感でいっぱいでしたが、いつも心地よい疲労感でした。今年は第 2 回でプレゼンターもさせてもらい、楽しませてもらったのも良い思い出になりました。足立先生、櫻井先生はじめ、スタッフ参加でおなじみの皆さん、とうぶざいたくの皆さん、感謝しかありません。10 年間ありがとうございました。(近藤高)

・お疲れさまでした。来年度からリニューアルするとのことで、どんなふうにブラッシュアップされるのか楽しみです。(平井)